

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	スーパーゼーンが制御する擬態紋様形成機構の解明
研究代表者	藤原 晴彦（東京大学・大学院新領域創成科学研究科・教授）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>応募者は、シロオビアゲハの毒蝶ベニモンアゲハへの擬態を司る遺伝子座が、複数の遺伝子からなるスーパーゼーンであることを見だし、130 kbにも及ぶ逆位が中心的役割を果たすことを突き止めるという大きな研究成果を上げてきている。逆位による新形質発現メカニズムの解明はゲノム進化学において、極めて重要な課題であり、ベニモンアゲハの模様形成との比較や生態学的な検討も含めて、この現象をあらゆる角度から徹底的に研究することが望ましい。</p> <p>以上の理由により、基盤研究（S）として推進すべき課題であると判断した。</p> <p>なお、研究計画では保護色に関する研究も予定されているが、スーパーゼーンの研究に注力して実施することが望まれる。</p>